

法徳寺だより

第91号 発行
浄土真宗本願寺派
法徳寺
厚木市岡田5-4-12
TEL 046-228-3962
住職 伊東英俊
法話 伊東英幸
編集 伊東祐子

降誕会・永代経法要

平成21年5月2日(土)
午後1時半～3時頃(受付 午後1時より)



光福寺ご住職 成田大信師

わたしたちの浄土真宗の宗祖である、親鸞聖人のお誕生を祝う降誕会法要(こうたんえほうじょう)と、永代経法要(えいたいきょうほうじょう)を合同で行います。当日は、お宅様の読み上げと、法話がございます。今回の法話ご講師は、厚木市飯山の光福寺ご住職「成田大信師」です。身近なお話をして下さいます、皆様、そ

《法要に持参する物》
過去帳・位牌
読み上げ用紙
お念珠
お経の本(お持ちの方)

知ってるつもり?
浄土真宗の基本

御本尊は?
阿弥陀如来

信仰の形は?
「南無阿弥陀仏」を称える

法徳寺の宗派は?
「浄土真宗本願寺派」
京都、西本願寺を本山とする宗派です。ちなみに、東本願寺を本山とするのは、真宗大谷派といえます。元々一つでしたが、東西に分派しました。

信者の呼び名は?
門徒(もんた)

開かれた方は?どんな方?
親鸞聖人(一一七三～一二六二)僧侶でありながら、家庭人であり、結婚し子供をもつけた、また、お肉も食べられた。
謙虚。皆、阿弥陀如来の導きによつてであり、私の弟子は一人もいないと言われ、ご自身では、浄土真宗の開祖とも言われていない。また、お寺を一つも建てていない。今、ここで救われることを説かれた。
正直な方で、裏表のない方。

浄土真宗のお寺の特徴
おまもりやお札など売っていません。お坊さんに、普通に髪の毛があります。お墓に塔婆がありません。迷信、気にしません。友引も大安も気にしません。方角、日の良し悪し気にしません。いつも仏様に護られているからです。決して、死んでからの救いを説きません。

仏壇中央に阿弥陀如来、向かって右に親鸞聖人、左に蓮如上人。
蓮如上人とは?
親鸞聖人から数えて、第8代目の方です。
中興の祖といわれ、浄土真宗の信者が大変増えました。

法徳寺仏教壮年会野外研修会



写真右上、曹洞宗本山総持寺にて俳優石原裕次郎さんのお墓にお参りしました
写真右下、花見の名所、三ツ池公園にてお花見をしました
写真上、浄土真宗(西)善教寺にて暖かく迎えて下さいました



今後の行事予定

(法徳寺)
6月 2日(火) ニコニコ法話会 午後1時半～3時
7月 2日(木) ニコニコ法話会 午後1時半～3時
8月 15日(土)・16日(日) お盆法要
(詳細は、次回法徳寺だより7月号に掲載します)
法話会への参加費等は、ありません。
(伊勢原分院 立德寺) 伊勢原市桜台3-16-9 TEL・046-391-2471
5月 10日(日) 法話会 午後3時～4時
6月 14日(日) 法話会 午後3時～4時

門徒心得

南無阿弥陀仏と称える回数には、決まりはありません。大切な事 法話を聞く
焼香の回数? 一回だけです。
線香は、横にしてお供えます。
是非、皆様もお経をご自分で称えてみて下さい。でも、般若心経は称えません。
迷っているのは、亡き方ではなく、生きている私たちです。救われなければならぬのは、私たちなのです。人の心と体は一体です。特に、心を健康に保つことが大切です。

法話



お寺に住んでいる者にとって、一番嬉しいのは、どんな時だと思えますか？お布施を沢山もらった時？も嬉しいですが(笑)、「法徳寺さんに来ると、ホッとするんですよ。」と言った時なのですよ。それを、お聞きした時には、思わず目頭が熱くなってしまう。住職という字は、『住む職』と書きます。お寺に住んでいる事自体が仕事なのです。ですから、自分の住んでいるお寺に来るとホッと出来るというのはこんな嬉しいことはありません。でも、住職と言うのは寺の主人ではありません留守番です、ご主人は、阿弥陀如来様なのです。そして、お寺は、阿弥陀様の救いを信じる方の我が家だと思ってお下さい。遠慮せずにお参り下さい、阿弥陀様は、大変、喜ばれます。生きていくことは、苦しみが多いことでしょう、悩みの無い人間はいません。でも、お寺にお参りされている間だけでも、安らげる場所があれば、また頑張れる。お寺は、帰る場所です。生きていくうえで、そういう場所が大切だと思います。

浄土真宗の教えは、浄土へ生まれることが目的ではなく、安心して生きることが目的であります。また、浄土真宗の葬儀は、亡き方が救われるのではなく、残された皆様が救われ、これからの人生をどう生きるべきかをみつめさせていただくものだと私は思います。亡き方を、ご心配されるお気持ちばかりですが、阿弥陀様が、必ずお救い下さいます。亡き方を心配するのは、阿弥陀様のお仕事なのです。逆に、亡き方は、残された皆様の事が、心配で仕方がないと思います。

最近、友人のご両親さまの葬儀の知らせを受けることが多くなりました。私もだんだん、そういう歳になってきたんだなと感じます。私の両親、そして、妻の両親も、今、元気でいてくれるのが当たり前ではなく、有難いことだと感じます。でも、日頃は、どうかという、喧嘩ばかりしてしまいます。

もし、今、自分の両親が亡くなったら、きっと「ああしてあげればよかった、こうしてあげればよかった、あんなことを言わなければよかった、もっと、親孝行しておけばよかった、一緒に旅行に行きたかった、喧嘩が出来ることは幸せなことだった」など、沢山の後悔をするのだからなと思います。

先日も友人の親御さんの葬儀にお参りさせて頂きました、出棺の際、釘うちの儀式をされておりまして、友人の顔にいつそう、悲しさが増したように感じました。浄土真宗では、釘うちはないのです、そして、塩をまいたりもしません。なぜなら、亡き方は、仏様となって、いつでも、私達を救う為に、お浄土より戻ってきて下さるからです。中には、逆縁といって、お子さんを亡くなれた方もいらっしゃるでしょう。親にとって、子供の葬儀をださなければならぬ、これほど辛い悲しいことはありません。お子さんに、釘打ちをしたり、塩をまけるわけはありません。

私も、去年、もしかしたら、親を悲しませてしまうかもしれないと思えました。人間ドックの検査で、甲状腺に癌が見つかったのです。丁度、地元の消防団の部長を引き受けたばかり、また、長年、一緒にお寺をやってくれていた、弟家族が、千葉へ引越して、四月には手術をひかえ、一体、これから、どうなるのだらうかと不安の中で過ごして来たのです。でも、救いだっただけは、自分は、浄土真宗の教えを聞かせて頂いていたということ、お寺に住んでいるということでした。いつでも、本堂に行けば、阿弥陀様の前でお参りが出来ることは、自分にとっててもプラスでした。その頃、仕事とはいえ、葬儀にお参りをするのが、辛く、お経をあげながら、涙が出てきました。お経をあげながら、自分の死を考えてしまつたからでした。

四月に、手術は、無事終わりましたが、これから、どうなるのだらうかという不安な日々は続きました。そんな時、横浜の寶光寺のご住職から、「生きていくことは、御用がある」ということだよという言葉にとても勇気をもらいました。自分には、まだまだ、やるべきこと、役目が残されています。生きている者は、亡くなった方の分まで生きねばならない責任があるのです。

最近になって、少し、病気になるのは、出来れば、なりたくはありませんが、病気をすることで、学ぶことも多くあることを感じるようになりました。皆様、お寺にお参り下さるのは、亡き方の為ですか？実は、亡き方が、残され

亡き方を思い、お寺の法要へと導いて下さるのだと思います。亡き方は、皆様の為にはたらくて下さっているのです。はたらくとは、「はたを楽にする」という意味です。皆様に仏様の教えを聞いて、楽に生きてもらおう、大切に生きてもらおう、素晴らしい人生を歩んでもらおうとはたらくて下さっているのです。

最近、仕事や地域の役員そして家族の中の父親役、ますます忙しい毎日になってきました、弱音をほさなくなるときも一度や二度ではありません。でも、最近、自分一人ですべてを背負い込むのではなく、いつも、阿弥陀様が自分を支えてくださる、自分を助けてくださる、一緒に重い荷物を持ってくださる、そう思うことにしています。

死は、誰にも平等に訪れますが、多くの方が、なるべく、他人事に考えていらつしやると思えます。死を考えることは、嫌なことですが、避けて通るわけには行きません。でも、死を超えた先に、いつか、また、出会える人がいる、待っていてくれると思っただけで、気持ちが楽になります。待っていてくれる道は、安心して生きていける道があるということです。これから、どうぞ、お念仏を称え、浄土への道をしっかりと歩ませていただきます。そして、いつか、浄土で、亡き方と再会をとげられた時には、褒めていただけるような生き方をさせてもらいましょう。

亡き方は、いつも残された者を信じて下さっています。必ず正しい道を歩んでくれるだろう、自分の分まで頑張ってくれるだろう。その思いを、裏切つてはいけません。皆様も、常に、亡き方が、喜んでくれるだろうか、悲しませないかと思つて生きてみてください。そうすることで、人生が、間違つた方向に向かうはずはありません、いつのまにか良き方向へ導かれるのです、それは、お陰様の人生です。(法徳寺副住職 伊東英幸)

資料「ブツタとシツタカブツタ2」メディアファクトリー社版より

